

市川宏雄(いちかわ ひろお)

明治大学名誉教授

帝京大学特任教授

2013年4月より町田市・未来づくり研究所所長。現在、大都市政策研究機構理事長、日本危機管理士機構理事長、日本危機管理防災学会会長、日本テレワーク学会会長、森記念財団業務理事等、要職多数。海外では Steering Board Member of Future of Urban Development and Services Committee, World Economic Forum (ダボス会議)、International Committee Member of Fourth New York Metropolitan Plan, Regional Plan Association 等歴任。

世界の第一線の都市研究者と協働して世界都市総合カランキング(GPCI)を森記念財団都市戦略研究所で2008年から継続的に発表するとともに、世界の主要な都市会議で、大都市の課題、未来、そして熾烈な都市間競争を語っている。2018年より日本の都市特性評価(JPC)も開始。

1947年東京に生まれ育つ。早稲田大学工学部建築学科、同修士課程、博士課程を経て、カナダ政府留学生として、ウォータールー大学大学院博士課程(都市地域計画)を修了(Ph.D.)。一級建築士でもある。ODAのシンクタンク(財)国際開発センターなどを経て、富士総合研究所主席研究員の後、1997年明治大学政治経済学部教授(都市政策)。都市計画出身でありながら、政治学科で都市政策の講座を担当するという、日本では珍しい学際分野の実践者。2004年から2018年まで明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科長。2008年から2016年まで明治大学専門職大学院長、明治大学危機管理研究センター所長も歴任。

専門とする政策テーマ:

大都市政策、次世代構想、災害と危機管理、世界都市ランキング、テレワーク

<主たる著書> 著作は30冊以上におよぶ。東京に関する最近の著作は以下のとおり。

『2030年「東京」未来予想図』クロスメディア 2022年(共著)

『新宿の逆襲』青春出版 2021年(単著)

『新・東京進化論』幻冬舎 2019年(共著)

『都市のエクリチュールー都市と国土の四半世紀ー』千倉書房 2018年(単著)

『災害発生時における自治体組織と人のマネジメント』第一法規 2018年(共編著)

『創発する都市 東京』都市出版 2017年(編著)

『バブル後25年の検証』東京書籍 2016年(共著)

『東京一極集中が日本を救う』ディスカバリー 2015年(単著)

『東京2025ーポスト五輪の都市戦略』東洋経済新報社 2015年(編著)

『東京五輪で日本はどこまで復活するのか』KADOKAWA 2013年(単著)

『リニアが日本を改造する本当の理由』メディアファクトリー 2013年(単著)

<主たる東京に関する審議会等委員>

東京都・国際金融都市・東京構想に関する有識者懇談会・委員(2020-2021) 特別区長会・調査研究機構・顧問(2019-現在)

東京都・東京と日本の成長を考える検討会・委員(2018-2019)

東京都・オリンピック・パラリンピック施設設計7°ロパ°-サル技術審査委員会・委員(2014-2015)

中央区・都市計画審議会・会長(2018-現在)

渋谷区・基本構想等審議会・会長(2015-2017)

大田区「国際都市おおた」推進に関する区民有識者会議・会長(2014-2017) 文京区・都市計画審議会・会長(2007-現在)

【詳細は 市川宏雄 オフィシャルサイトへ <https://ichurban.jp/>】